

科目名	応用倫理学	担当教員	和田 義哉 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13A	①					

科目概要	我々は日常の様々な状況において物事の善し悪しを決めなければならない。本授業では様々な情報を元に物事をどのようにとらえ、判断していくかということを学習していく。また、医療人として必要な倫理観を養うため、様々な医療トピックスについて考えていく。
学習目標	① 日常生活において起きている出来事に対し、自分の判断と誇りに責任を持てる。 ② 倫理観は、社会や時代の変化によって変わること理解できる。 ③ 授業内での討議において、自分とは違う相手の意見に対し、理解を示すことができる。 ④ 将来医療従事者として働くときに必要な医療倫理を持ち、様々な立場を理解した上で正しい判断ができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	ガイダンス	倫理学の大きな流れを説明し、法律と倫理の違いを学習する。	倫理学に関する基礎的な知識を習得し、倫理学が日常の様々な場面において機能していることを理解できる。	
2	死刑制度	日本の死刑制度を理解した上、世界の死刑制度の情勢を踏まえ、死刑制度の是非を考える。	国家・被害者・生命倫理など様々な立場から死刑を考えることができる。	
3	ネット社会	インターネットの正しい活用法や様々なメディアから入る情報の選択について考える。	様々な情報が氾濫する中、何が正しいかを正確に判断し、意見を言う時、何に気をつけなければならないかを考えることができる。	
4	嘘をつくこと	嘘をつくことの背景、また、医療現場での告知と嘘について倫理的に考える	日常における嘘をつく行為の、悪い面良い面を理解し、その時々で正しい判断ができる。	
5	インフォームド コンセント	インフォームドコンセントの歴史的な経緯、具体的な在り方などを学習する。	医療従事者として、説明する行為の重要性、またその弊害を考えることができる。	
6	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死の違いとは何か、それに関わる歴史的推移を見ながら死ぬ権利を考える。	実際の行為者や周囲の人々の気持ち、また死に対する倫理から、人生の終えんを考えられる。	
7	脳死と臓器移植	脳死の定義、ならびに臓器提供に関する課題などを学習する。	脳死は人の死と言えるのか、また、臓器移植に対する功罪を考えることができる。	
8	人工妊娠中絶	日本における人工妊娠中絶の現状、中絶する理由、命を生かす課題について学習する。	家庭事情、現代社会、宗教観、様々な見解から中絶について考えることができる。	
評価方法		筆記試験（60％） レポート（30％） 授業内での意欲的な態度（10％）		
課題に対するフィードバック		次の講義に前回のレポートについての総評を行うが、個人別でのフィードバックは行わない。		
教科図書		なし		
参考図書		児玉聡・著『実践倫理学』勁草書房、2020年 他はその都度授業で紹介する。		
学習の準備		事前にシラバスの内容から次回のテーマについて、書籍やインターネットを活用して調べる（90分） 授業後は資料や討論の内容などを復習し、諸問題に対する確固たる意見を持てるようにする（90分）		

オフィスアワー	木曜日 12:30~14:00
担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	